

Ⅱ．ポスターセッションの部



ここからは、日本各地から集まった博士課程リーディングプログラムの履修生等と地球研の若手研究者によるポスターをご紹介します。

今回のセミナーでは、この20件のポスターを軸に企画が構成されています。午前中のポスターセッション、午後のポスターフラッシュ発表、最後のワークショップと、題材は全てこれらのポスターたちです。

ここでは、ポスターの内容を1人2分で説明したポスターフラッシュ発表の記録を、ポスターとともにご紹介します。

1. ポスターの題目と発表者

区分	ID	ポスタータイトル	著者	所属もしくは職位
大学院 など (G)	1	世界の資源消費と人為的攪拌の定量的研究	吉田 圭介	名古屋大学大学院 環境学研究所 / PhD プロフェッショナル登龍門 博士課程 3年
	2	持続可能な教育の場としての「道場」——生涯を通しての人間形成の場	張 平成	名古屋大学教育発達科学研究科 / 「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム博士課程 1年
	3	汎共生の夢——パウル・カンメラーの科学思想から	相馬 尚之	東京大学大学院総合文化研究科 / IHS 修士課程 2年
	4	福島第一原発事故の新聞言説における〈主体化〉-各紙の比較分析を通じて	田中 瑛	東京大学大学院学際情報学府 / IHS 修士課程 2年
	5	人新世における民主主義的な技術開発についての現状と課題	水上 拓哉	東京大学大学院学際情報学府 / IHS 修士課程 2年
	6	観光を熟議する——旅と日常のあいだの民主主義	田邊 裕子 宮田 晃碩	東京大学大学院総合文化研究科 / IHS 博士課程 1年
	7	「苦痛の連帯」のためのデモクラシー——写真家・鄭周河(チョン・ジュハ)の福島写真を手がかりに	李 範根	東京大学大学院総合文化研究科 博士課程 2年
	8	ランド・アートとしてのモエレ沼公園が環境問題に果たす役割—ゴミ埋立地の公園造成から札幌国際芸術祭 2017 までの歩み—	八幡 さくら	東京大学 IHS 特任研究員
	9	環境問題に関する市民参加を促進する多元的コミュニケーション強化システムの構築を目指して	許 俊卿	大阪大学大学院人間科学研究科 / 超域イノベーション博士課程プログラム 博士前期課程 1年
	10	災害後の社会における創造力、利他性、ユートピア	大門 大朗	大阪大学大学院人間科学研究科 / 超域イノベーション博士課程プログラム 博士課程 2年

区分	ID	ポスタータイトル	著者	所属もしくは職位
大学院 など (G)	11	ヒアリ防除における侵入初期での効率的なモニタリング戦略の策定	有子山 俊平 藤岡 春菜	東京工業大学環境・社会理工学院／グローバルリーダー教育院 (AGL) 東京大学大学院総合文化研究科 博士前期課程1年
	12	日本における難民受け入れの歴史の変遷	大野 沙織	京都大学大学院総合生存学館 5年一貫制博士課程1年
	13	再生可能エネルギーが持続可能性に与える影響 —Inclusive Wealth (新国富指標) を用いた実証分析—	伊川 萌黄	九州大学大学院工学府／持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム 博士課程1年
	14	人新世において民主主義の場所はどこにあるのか？	小川 歩人	大阪大学大学院人間科学研究科／超域イノベーション博士課程プログラム 博士課程2年
地球研 (R)	1	Whose Anthropocene? By whom is the Anthropocene narrated?: The Anthropocene as a historical discourse and problem of subjectivity in history	寺田 匡宏	地球研客員准教授
	2	環境政策の形成プロセスにおける市民参加の手法と評価	増原 直樹	地球研プロジェクト研究員
	3	人類史とサンニーション—カメルーン狩猟採集民の事例より	林 耕次 ほか2名	地球研プロジェクト研究員
	4	環境“保全”の担保は何か—カミという民主主義—	嶋田 奈穂子	地球研センター研究推進員
	5	「男」の生き方と環境問題—エコフェミニズムを手がかりに	大谷 通高	立命館大学生存学研究センター／地球研センター技術補佐員
	6	市民のアイデアで解決困難な環境問題の軸をずらす：琵琶湖の水草資源活用コミュニティの形成	近藤 康久 ほか11名	地球研准教授

※ G-04 のポスター発表要旨は、発表者の希望により掲載しておりません。